# 私が関わったオフショア開発プロジェクト

## プロジェクトの概要

損害保険会社Ａ社はインターネットでの自動車保険や傷害保険などを販売している。市場のがんや先進医療に対する補償のニーズにこたえるため、このたび医療保険に新たに商品を増やすことになった。その際に今後の市場のニーズに迅速に対応できるように、汎用機で構築された現行の医療保険向けシステム（以降、旧システム）を、オープン系のＷｅｂシステムとして再構築することとなった。Ａ社は全国に数百件の代理店をもち、各代理店は新しいＷｅｂシステムを利用して、保険の申し込みの登録や、情報変更などを行う。本開発の総開発工数は約１５０人月、開発費用は約１．２億円である。工期は１年間。約８ヶ月で製造、結合テストを終え、続く４ヶ月で総合テスト、運用テストを行う。以上を踏まえ、当医療保険再構築プロジェクトを情報システム開発会社であるＢ社とＣ社が受注した。Ｂ社は新システムの基幹部分を構築し、Ｃ社はＥＴＬやワークフローなどの新システムの周辺システムを構築する。私はＢ社の社員であり、本案件のプロジェクトマネージャに任命された。

## 発生する問題を明らかにするために調査したこと

発生する問題を明らかにするために以下の点を調査した。①対象企業の保有技術及び実績、②開発モデルや主要な成果物等への理解、③言語、文化、風習、ビジネス習慣、日本のビジネスについての理解、④管理能力

# 調査の結果を分析して明確になった問題と対策

プロジェクトマネージャは、国内のソフトウェア会社に初めて委託する場合、その会社の保有技術や実績を確認したり、仕事の実施状況を社内の委託経験者に確認したりする。オフショア開発ではこれらの確認に加えて、言語、文化、風習やビジネス慣習などの違いを把握し、それらによって発生する問題を明らかにする必要がある。

## 調査の結果を分析して明確になった問題

保有技術、実績等については問題ないが、以下の問題が明らかになった。

1. 仕事の手順や成果物の種類が想定しているものと異なる。
2. 日本のビジネスについての理解が少ない。
3. 管理能力が低い。

## 重要と考えた問題

前述の②③が非常に重要であると考えた。これが原因でシステムの要件や仕様について多くの齟齬が生じ、その解決についても困難になり、管理工数も増加する可能性があるためである。

## 問題に関して実施した対策

上記の問題に対して、次の対策を実施した。

問題①への対応：適用する開発モデルや成果物、その作成手順等について明確に定義し、契約書に記載する。

問題②、③への対応：オフショア経験のあるＳＥを委託先の企業に派遣し、システムの要件や仕様の伝達、作業品質や進捗の管理を行う。

# 私が行った活動についての評価と今後の改善点

## 私が行った活動についての評価

前述の施策により管理面での問題を解決し、納期、品質ともに問題の無いシステムを構築できたことから、おおむね成功したと考えている。

## 今後の改善点

派遣したＳＥはビジネス習慣や言語、文化の壁に非常に苦労していた。今後は派遣前にオフショアに関する研修やノウハウの共有を行う。

以上